

自由連合

Liberal Federation

1970

3月20日

No. 14

姫路市かめ山354
同井方 921 0723 36

自由連合社

定価 30円 送料 10円

送金口座へ
振替口座
大阪 1264

通信連絡ラン
④ 自連振替口座
大阪 1264
④ 自連にカンパを

戦争と革命

が、自己の労働者に対する各資本家の競争が結局は労働者全体に
対する資本家全体の競争に変わること、を論証した。
それと同様に戦争もいまだ戦争手段への従属によ
って規定される。V

戦争の構造

現代戦の本当の主人公である武
器は、戦闘をしない人々によって
管理されている。

この管理装置は、自国の兵士を
強制的に死へあくる以外に戦う手
段をもたぬため、一国の他国に対
する戦争は、ただちに自国の軍隊
に対する国家的軍事装置の戦いに
転化する。ついに国家と参謀本
部の全装置が武器をとる命令のす
べの人間に対して行い戦いの観
を呈することとなる。

そして機械は労働者からその勞
働力だけをもぎとり、資本家は解
雇以外の強制手段をもたないのに
対し、兵士は、武器の要求にその
生命をささげることと強制され、
しかも国家権力が彼の頭上に下す
処刑の脅迫の下に、それを強制さ
れるのである。

戦争が、防衛であるが、攻撃で
あるが、帝国主義的であるが、民
族的であるかなど、もはや問題で
はない。

戦争の当争口は、すべて、敵も
それを用いるかぎりこの方法をと
らざるをえない。

ほとんどすべての戦争論にかけ
る——とりわけ社会主義者たちが
持ち回っている大きな誤見は、人
戦争が何よりも最も残酷な事——
国内政治の事案であるにもかかわ
らず、それを対外政治の一エピソード
と考えることである。それは
はごく単純な事実、殺りくは抑圧
の最もラジカルな形態であって、
兵士は死にさらされるのではなく、
殺りくにかりたてられるのだとい
うことである。

抑圧の装置は、ひとたび完成さ

れると、破壊されるまでは存立する
ものであり、すべての戦争は、たと
え革命家たちによって遂行されよう
とも、反動の要因とみなさなくては
ならない。国家装置によって駆使さ
れる武器は、何人にも自由をもちら
すことはできない。

革命戦争は革命の墳墓

革命戦争は、革命の墳墓であり、
——兵士自身というより武装市民
に指揮装置、警察の強圧、特別裁判、
逃亡に対する刑罰等なしに、戦争を
遂行する手段を与えないかぎり、こ
のことに変わりないであろう。近代
の歴史では一度、パリ・コミューン
の下でこのようにして戦闘がなこ
なわれた。これがどのような結末を見
たかはよく知られている。

戦争に従事する革命は、反革命の
打撃の下に潰えるか、軍事的競争の
メカニズムそのものによって、自ら
が反革命に拡大するしかない。

そこで革命の展望は、ごく限られ
てくる。革命は戦争をさせることが
できるか——この困難なチヤンスの
創出に一切の希望をかけて挑むか、
それとも放棄するかである。

時として、戦争が革命的要因であ
るかに見える場合にも、それはたに
戦争が国家装置の機能を、比類のな
い試練にかけける意味にありてである。
戦争にふれると、悪い組織の装置は
崩壊する。だが崩壊が徹底的に行わ
れない場合、あるいは戦争がすぐに
終結しない場合、マルクスの定式で
いう、国家装置を破壊する代りに見
成する——革命が起るにすぎない。
これがこれまでいつも起ったことで
ある。

国家に対する

内部からの闘い

戦争は今日、革命の要因となりう
るが、それにはナチと同じに理解
する場合のことである。恐怖と同じ
く、戦争は資本家への烈しい敵意を
喚起するけれども、この敵意は、勞
働者の利益でなくて、国家装置の利
益となるであろう。また戦争現象と
ファシズム現象との深い類似関係を
知るには、人好戦的精神と人戦線
社会主義を喚起するファシズム文
書をみれば十分である。そして資本
主義が多少損害を受けるばかりにも
それはた人間的価値とスロレタリ
アートの犠牲にありてのことであつ
て、その利益のためではない。

歴史は、一切の政治行動に国家装
置が加える抑圧を加重化するの、こ
の装置をこわすために、それを直接
相手として闘争するか、のいずれか
を否応なしに選ばせるようにみえる。
だがもしも行動を放棄しまいとす
るならば、国家装置に対しては、内部
からのみ闘争しうることを知らねば
ならない。

とくに戦争の場合、自らも歯車と
なっている軍事情報の働きを阻害す
るか、あるいはその機軸が人間の生
命を、きくづくのに助けるか、こ
のどちらかを選ばなければならぬ
のである。

ヘンリー・マ・ウエー・エマ戦争と革命
の省察より

自由連合

自連社読者会のお知らせ

いづれも3月29日(日)午後1
時より、東京 砂川反戦塾にて
▽名古屋 栄YWC Aにて
大阪 OSシネラマ劇場裏通り
喫茶店MOKO一階

高校・中学生の自由連合を
最近、高校・中学生の自連読
者が急速に増えている。彼らの
多くが孤立した闘いをしていて
自連社では彼らの横の連絡に尽
力する。高田(新潟)、名古屋
大阪、埼玉、長野、広島等にブ
ループがある。自連社に問い合せを!

砂川反戦新境の歩み

23枚岩の団結

砂川に開いてきた、また現に開いていく人々は、次の4グループに大別できるだろう。

① キリスト者

② ルンペン・プロレタリアート

③ 中退退等者等、ノンポリ、ノンセクトラジカル

④ 反代々木系新左翼

⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

① 正統なるものに対し、体質的異和感を示し、時には積極的な攻撃をかけるのである。彼らはそれぞ

れ独立した思想の保持者であり、主張者である。だからこそ、砂川町基地拡張反対同盟の23戸の農民達が「一枚岩ではなく、23枚岩だ

と」と語り、24・25戸目の反対同盟員として位置付けたのだ。

異端者をもって往ける彼らも、一つの壁にぶつかった。それは現

社会体制の改革の確信ありやなしや、そしてそれは誰によって、ど

のようにして達成されるのか、という漠然ながらも正しく提出さ

れた課題だった。彼らは単に反抗心を燃え立たせるだけではなく、一つの解答―反戦新境の構築―を

生みだしたのだ。

新境を運動として導いたのは⑤のグループだった。初期には⑥のグループが介入したが、結局新境

行動隊は基本的に⑤のグループによって構成された。だが開いては厳

しいが故に、その限界は早くやっ

てきた。それに対し、彼らにはもう一つの解答―新境共済会議―を出

した。しかしこの純然たる混成部隊は4・28斗争の中で、不可避的に分散状態に陥った。運動の必然

的緊張（合体的政治状況と個別の砂川との向を往来する、運動の全般的、感覚的、戦術的、理論

それはやはり、自己の運動の進展の中から見出すより他なかった。

①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿

現場労働者の組織された部隊、共闘会議を事実的に担っていたのは、他ならぬこの人達だった。

いま、砂川は大きく生れ変わるうとしていく。基地拡張阻止から、基地撤去への戦略的転換は達成されるだろう。砂川は日本階級斗争史上に新たな姿をもって登場するだろう。

砂川青年の家

から「砂川反戦新境」まで

共同生活体としての「砂川青年の家」は9月末日をもって砂川反戦新境に合流し、発展的解消を遂げるこ

ととなった。

「砂川青年の家」の南には、砂川町基地拡張同盟の孤獨な南に心算する形で開始された。しかし南に十分

に生活化し、地元と連帯する方向を追求したとは断定しえない。それは常に新しい思想的脱皮が要求されたからである。

砂川土着化の出發点は花壇のPA×花文字である。「砂川青年の家」と滑走路前の大十字架は砂川反戦新境建設の突破口となった。また、こ

れらの運動形態を生み出す母胎として、砂川町基地拡張反対同盟があり、

日本山妙法寺道場が位置していた。

一方砂川反戦新境は米軍輸送機が側の露骨な抑圧下に、援農・花壇ふ

くりに始まり、「砂川青年の家」を、地元反対同盟の土を耕やす仲間への共感と配慮によって開設した。

一方砂川反戦新境は米軍輸送機が激しく離着陸する立川基地を前に、

「沖繩南争」と連帯して69年之月之日に作られた。これによって、基地

拡張阻止南争から立川基地撤去へと攻撃型の南争が提起されたのである。

そして沖繩の革命的セネストに自らの奥底をもつて応答し、支持するに

め、滑走路前の断食でもって立ち上った。

中央線沿線へ平連を主要メンバーとした立川基地をなくす市民の会、各地区反戦の有志等百数十名の共闘

集団は、滑走路前に十数本の旗を立て、これを2月4日まで徹夜で守り

ぬく南を開始した。もし円陣をつくり旗を防禦しなかったならば、200

名をこえる私服・機動隊員が即座に持ち去っていたことだろう。旗を

立てた者が旗を守る。これは砂川南争の鉄則であった。

第一日目の夜は、約50名がみそ汁とニギリめしの夕食をとった。あり

から降りはじめた冷雨はみそれにか

わった。その中を十数名が円陣をち

ぢめて居残り、夜を徹して見張りす

ることに決めた。当初暖かかった

穴は、一向四方深さ1m、日本山妙

法寺の宝塔を建てる意気込みをデモ

ンストレーションする為のものであ

った。その小さな穴が、反戦広場の

南に生活化し砂川農民と直接的に

連帯する反戦新境の始まりだった。

ジェット機の威嚇低空飛行、ビズ

トル発射事件、発煙筒投入等々数限

「砂川青年の家」を塾場に一本化する意味はここにある。
砂川反戦塾場に居候し、共闘する何々の実存が、新たな存在への重要な基盤を形成するであろう。そして存在を去棄とする閉じは、更に去棄を血と化し肉と化し、霊とする新たな存在の閉じへ前進するであろう。

論平連の続 論平連のほく

星 岡 弘

平連といふのは器である。だから平連がどんなであるかを決定するのは、その器にむらるる中身によつてゐる。だから小田実や吉川勇一ら平連に閉る人々の考えをとりあげて平連を断定することはできない。いろいろな平連論があるように、様々な形の平連があつてよいのだから、だからと云つて全く無原則に平連が名乗られ、没主体的な平連へなんでもええから平連と名のつたりするものが増えたり、政治セクトの出身機関に墮落するのを無防備にほつてゐて良いわけではない。

その発足当初から、ぼくは平連にひびくようにアナキズム的な体質を感じてきた。しかし、最近送られてきた平連の機関紙に「万口のプロレタリアート」を固結せよとか「世界革命戦争勝利」などというアジが踊つてゐるのを見つけた時、平連、おまえもかしといたいたい気持である。アメリカのSDSが初期の頃、平連のようなユニークなノンセクトの新・新左翼運動としてあつたのが、現在では視る影もなく、セクトの巢に墮したのを耳にするにつけ、平連にも今、何か強力なクサビを打ちこんでおかないと、その崩壊は予定されてゐるかのようだ。

① 平連トンネル論を許すな——「誰もか入れる平連デモ」のイメージは新左翼の熱いデモに

入れない連中のデモという誤った概念を与えた。また「誰もか入れる」ため、はつきりとオルグの意志をもつたセクトの活動家の介入も自由であつた。活動ワロウトにとつて平連というシロウト集団を引き回すのは、赤子の手をおぼるようなものであるのかもしれない。

加えるにシロウトの悲しさ。「われわれは、プロレタリア階級に奉仕する前衛党をつくり、階級闘争を闘い抜く……」とまくりてられると、絶望である故にセクト・コンアレックスを感じたりする。「セクトの導中はようやる」ということになる。ここに「平連準備軍」とか「平連トンネル論」などがセクトの側から登場する。すなわち、平連をやつてゐる連中の中で、階級的自覚と平連の限界性に目覚めたものが反代々木系新左翼運動に入つていく。平連は、大衆と反代々木系新左翼の向をつなぐトンネルであるというのだ。大学平連が登場してからその傾向はますます顕著になつた。各セクトのオルグ出身機関である大学平連が同一大学内に、三つ四つある場合がある。

② 現在の平連方式をのり越えよう——現在の平連方式とは、中央の統一指導部（と）という、そのなものはなれと云われそうだが、現実的に誰もか認めるタレントグループがあるの呼びかけによる個人ケルアの求心的連合、それも行動する時だけの、それが終つたら各グループや個人に拡散してしまふものである。

この状態をのり越えるためには、東京の平連も神楽坂平連という地方平連の一つに解消し、従来の統一、求心的方向から、焦点をいくつももつ不定形の構造的な方向へ運動形態を大転に展開していかなければならない。へ名称にしても、「平連」は運動総体の集合名詞にのみとどめ、各地方平連は、もっとユニークなハレンチな固有名詞をもつた方がよいのではないか。

教の焦点をもつ運動の複層的、重層的、有機的な連合によつてより強固なものになる。この自由連合の可能性を徹底的に追求しよう

③ 平連限界論の限界——反代々木系新左翼、自称革命家の連中の平連限界論はだいた次の二つにまとめることができる。すなわち、①階級観の欠如、市民主義の限界、②反組織主義、自由連合主義の限界。それらは要するに、平連は体系だった理論をもつた革命運動ではないといふことに帰着する。

④ について云えば、現代革命はアルジョア対プロレタリアという階級対立は不明確化し、あるのは権力対反権力の対立の構図でしかない。平連を市民主義の市民運動と断定することでは何等批判したことにはならない。市民主義による市民運動は、今日における否定しがたい現代革命の一つのパターンなのである。

⑤ について云えば、古今東西存在した組織論は、自由連合主義と中央集権主義の二つでしかなかった。そして今まで、権力側はもちろん反権力側も多分に中央集権主義的組織論に呪縛されてゐたと云えよう。

その違いを相対的に記述すれば、
中央集権主義Y—自由連合主義V
固定的——流動的
硬直——柔軟
命令——同意
対決——遊撃
秩序——八方破れデパート
肉體——展南

限定——非限定
悲劇——喜劇
統一——分散
ということになる。とすると平連運動がとらねばならないのは当然、自由連合主義Vということになる。平連の原理は自由連合派アナキズムの原理と非常に似かよつてゐる。とすると逆に、自由連合派アナキズムをたどることによつて現在の平連運動の実情、最近の大学平連の動きや去年のハンパク会場での平連連合争などを見直し、再考することができるとはならないだろうか。

たとえば、④自由連合主義組織論（非暴力直接行動主義、反議院主義、反革命論等々）、自由連合派アナキズムを意識的にとりあげることによつて平連運動の本質的的原理に迫るものがあるのではないだろうか。（おわり）

無数の十人委員会 非暴力直接行動小集団の連合を

70年安保は、日本国家の質的大転換を明確にした。それゆえに、国会は、議院制度、力対力の暴力闘争となつてくる。70年代の現実は、社会変革を要求する。この激動期を、市民運動として、市民運動の貴重な遺産、党派精神を起えること、定着させ、堅持してゆきたいと思つてゐる。

私たちは、ベトナム反戦運動を行つてゆくなかで、自身が加害者であるのを自覚した。その自覚は差別が現存する社会に在るから、自分も殺人の共犯者であるというところまでゆきついた。党派精神を越える一差別をなんらかのうちに昇華する一ことの出发点は、この自覚と責任を自己および支配者に対して追求することにある。私たちは党派を超え、長続きのする自由連合の運動体をつくりあげようとしてゐる。この運動体は出发点として、人々の結びつきの原理、組織の形態の組み換えを目指してゐる。具体的には、複雑な危機的状況のなかで、どのように取り組むのか、自分で考え、この考える小集団あるいは個人が連絡をとり合い、自立的連合的な運動をおこすことにある。

共同計画、共同実行、共同責任を担える小集団（10人委員会）が重層的に結びあつて百人委員会を構成し、座り込みなどを中心とした非暴力的な方法、非合法法を問わず、安保体制解体の闘争をおこすことにある。

非暴力直接行動は、手段でできるだけ目的に近づけた闘争形態である。それは、人間は価値可能体であり、状況によつて可変的であり、変革の敵は、個人ではなくして

て制度である、という認識をふまえたものである。革命は、私たちに切実な問題であるが、その革命も実は、「敵を殺せしめ原理とする政治の意志と構造からゆきかたせうという事象をみるとき、非暴力では無力な意味は、政治の暗黒の部分に光を投げかける。

私たちはすでに昨年から、いづつかのグループと討論をかこめ、百人委員会の準備をはじめた。あなただけの運動に賛同して下さるなら、私たちに共に、あな自身が無数の10人委員会をつくり、その連合による百人、千人委員会をもち、死を越える座り込みを、国家の前につぎつぎと。

（非暴力反戦行動10人委員会）

付記

① この提案のユニークさは、その組織論にある。しかし、行動形態を、すわり込み、集中化させ、既成概念の「非暴力」からの発想のワケ内に行動形態をととめてゐるのではないかと思はれる。

② 既成の「非暴力」概念は、既成の「暴力」概念を伴つてゐる。それが運動の発想の固定化をもたらしつゝ、新しい非暴力直接行動は、従来の「非暴力」「暴力」概念から自由なところを生れねばならない。たとえ「暴力」か「非暴力」か、街頭デモやパレード、すわり込み、単独化する図式から抜け出さねばならない。それは「暴力」の拒否でもあるし、同時に従来の「非暴力」の批判でもある。

③ 呼びかけ、にある小集団の重層的連合は、自由な発想による様々な行動形態をもつ無数の小集団の有機的連合に発展させなければならぬ。

同一思考と同一行動とするグループの連合ならば、それは組織主義の範囲内の連合論にすぎず、異質なものを切り捨て、一致するものとしての連合できないことになり、運動は先細りする。真の自由連合主義は、異質なものと一致を求めていく方向に発展的に展開されねばならない。

④ ともあれ、10人委員会の呼びかけは、現在の低迷する運動の中に、何か新しい質の開けを生み出す触媒

となろうとしてゐる。ぼく達はそれを主体的に受け留め、ある限りの連帯を示さねばならぬだろう。

中絶11月

佐藤首相は帰国後記者会見でこう述べた。

と述べた核の問題。

向いて「沖縄にある核兵器メースBはいつ撤去されるのですか」

首相「沖縄に核があるかどうかはだれも云えない。米国内法によつて秘密にされている。これは大統領しかどうするということはいえない」

さらにこうもいった。「メースBがあるかどうかはつきりわかつていないので、どうも云えない」

沖縄に住んでゐる人間なら、半島にあるメースBを毎日見ている。単に基地が見えるばかりでなく、時には本体を現わし、中国に向つて太陽の光をあげ、白く、キラリと輝くものを見ることもある。この巨大な姿が、日本政府にはなぜみえないのか。

あるいは、メースBが核兵器であるとの子供でもわかる軍事知識さえ日本政府はもっていないのか。さらに「核の有無については、国内法で禁じられてゐる。大統領にしか云えないことだ」というが、いったい日米交渉は、米国内法のワケ内交渉でしかなかったのか。

B52の撤去についてはさらに平明共同声明が発表されたその日も、B52はベトナムに向け発進した。こうした現実の中で、共同声明のしらじらしい。

十一月二十六日、那覇では日米会談に抗議する県民大会が開かれた。大会には約二万人が集まった。那覇市の人口は二十万人、十人に一人の大会参加だ。

ところで、那覇市での二万人は人口一千万人の東京にならんと百万人の集会になる。本土は沖縄からこのように抗議の声を「東京百万人集会」の重みとして受けとつてゐるだろうか。日米交渉に抗議する本土革新の声は、蚊のなく声より小さい。

本土は遠い。政府、自衛隊ばかりが近づいて見える。（「わが沖縄」オウ号より、北九州市八幡区岸の浦2の4のB「おきなわを考へる会」）

自由連合

アツと驚く

少々古い話になる。昨年の10・21国際反戦デーの前の新聞に、「東大」阪平連の御堂筋デモ申請却下される」という記事があったのを憶えている人もいるだろう。この記事はわれわれ事情通のものにとつては奇妙な記事だった。というのは、阪平連は、当日、総評デモの中に入つて、へといつても総評の方では阪平連のような暴力集団の参加を許さないとしていた。正確に云うと実力でもり込んで、総評の焼香デモを挑発する予定だった。だから、東大、阪平連だけが単独で御堂筋デモを申請するはずがなかった。その真相が最近送られてきた東大、阪平連の機関紙で少し明らかにされた。それによると、ある総評傘下の労組組合の青年の一部が、中央の10・21の取り組みに對して不満で、単独で御堂筋の造反デモを計画したがデモ申請に際して届け出る名前が必要になった。まさか自分が批判する組合名を出すわけにいかず、東大、阪平連が実行するのを知らずに東大、阪平連の名前で三百人のデモ申請をした。それを新聞ではじめて知って驚いたのは当然の東大、阪平連。なんせ京片、阪平連から分れたばかりの弱小（否、少数精鋭の）阪平連。どう頭教を食せても三百人になるわけがない。それに、自称全国で最も平均年齢の高い阪平連である。御堂筋をゼンガクレンのアンチアンと一緒にデモれるはずがなかった。これが真相である。

このような事件にまさかされるのは、高名なる故の有名義かもしれない。無党派の南の集団の代名詞として「阪平連」が使われるなら、阪平連はニアンにとつてこれ以上のほまれはない。誰もが好きな勝手に名をのける「阪平連」こそ、阪平連の本質があるのだから。

「アジア」と「女性」を問う

この意味

私たちが、日本の諸運動を位置づけようとするとき、アジア認識の弱さが露呈する。「アジア」は敗戦後、一種タフなイメージにたため、その認識は浅い。私たち

はそのような意識傾向のなかで、アジアを問うことの意味から自問せねばならない。それほど深く、日常性も思考世界も脱離的である。ヨーロッパからみたアジアでなく、アジア人がみたアジアがみえていない。みえていなくて中国もベトナムも語られる。

女性性—民衆—民族—アジア、というぐあいに存在を問うことから出発するほかに思考の具体的手がかりがない戦後世代が、その手がかりのなさ自体を問題にせねばならない。社会的状況の認識と存在認識とが接点をきつかりと持ちがたい奥が、女にちよとして一般民衆の何々の苦痛の根源であるのだから。社会的状況は人間何々人を問うことなく、存在を遺棄させにすまぬまぐるしく進展しつづける。そしてその状況認識すらわらぬ個体の思想という短絡が一般化しているためである。

「アジア」と「女性」と「交流史」とが、いつか深く、過去のものとしてでなく、未来開拓の力として働くよう互に徒勞を重ねたいと思う。 （「アジア女性交流史」申し込み）

「アジア」運動の現在の課題

東大・日大を頂点とする全国学園斗争、六八年のフランス五月革命の労働者のゼネスト、日本における反戦派労働者の抬頭に象徴される斗いは、資本主義社会の矛盾を背負わされたあらゆる立場の人民の反体制運動として、とりわけ労働者の深部での斗いである。

こうした状況の中で、よく違が向題にしなければならぬのは、いかに運動をつくりだしてゆくのかという組織論的視点を全く欠落させて、「今や、時代が「アジア」を要求している。アジア」の本質的な部分がか全世界の人民の中にゆっくりと根づいてきたのだ」といった樂觀観や、いまだ「アジア」文献をこねくりまわしている傾向をゆるしていることだ。（「弾丸」4号、福岡教育大「ナ研」）

京都こそは南という

もし今日の日本の首都で革命や反

革命が勝利しても、京都はそれに敏感な反感を示しなからち、最終的には首都ののぼす秩序を出しめき、首都とは異なる秩序又は反秩序を放するだろう。人々はだから京都の無表情を信じてはならぬが、その過激さを信じてよい。さらに、その過激さが安樂を欲する生活者の勤勉と表裏であることを見抜けばよい。

一九七〇年をむかえて私が確信することは、京都こそはよく南という場所であると共に、華麗に面白く南という場所である。京都の苛酷な形式性は、実は奇妙な変容可能な不定形の思想を誘発する。

竜谷大開争の本質／花園大開争の本質／ニヒリズムのすすめ／自由連合と民族学への序／9・23集会に現われたARFの本質／立命館大・二部南争史／復刻「労働放浪監獄」後藤謙太郎

自由連合読書会

★東京 三月29日(日) 午後一時より、於砂川反戦塹壕(中央線立川駅よりバス砂川五番下車)
★名古屋 三月29日(日) 午後一時から五時まで、場所 名古屋市内紫雲寺 YWCA 集会名は自由連合読者の会とさせていただきます。

砂川塹壕

砂川塹壕とは
一、革命の戦士たることを自らに名付けた者の道場である。
一、15年にわたる砂川南争に導き、その勝利を革命への第一歩として確認する者は来れ。
一、国有地を南のエネルギーと化し、塹壕を住居とする者は集れ。
一、ヤドナレアプレ者は歓迎する。
一、三里塚でひとひきしたいと考えている者よ、砂川に学べ。
70年2月 砂川反戦 塹壕行動隊

●れんらくは、立川市砂川町1232の8 砂川反戦塹壕行動隊まで

反国家と自由の思想

この本では、自由・革命・組織国家というもつとも基本的な四つのテーマが、一貫して正面から追求されている。

この四つのテーマのどれ一つをとってあげても簡単にケリのつくものではない。どこかで筆者が書いていたように「組織論だけに10年かかってのことだ」とは云えないし、これからのテーマに真正面から取り組むことは、底なしの沼に踏み入ることでもある。

また著者は、新しい時代の新しい思想にすでに気付きはじめている。たとえそれは、八序章、ほく自身のためのマニフェストで三つの課題として大胆に提示されている。

一般的に、アナキズムは非常に空想的で、マルクス主義は科学的であるらしい。それに居直っているアナキストもいるが、彼らは向

伝言板

ト自身それを否定する根拠をもっている者はいるだろうか。どうみても今までのアナキズムが、科学的で、理論的であったとは云えない。バクーニン、クロポトキンからの百年一

日でしかない。そのような中で、著者が「アナキストと呼ぼうが呼ばれまいが、徹底的に社会科学的な、徹底的に理論的な作業に出ていることは注目すべきことである。著者がなくては書けなかった10年間の思案のあとを示す好書である。この本によって、著者の思想家としての真価がいかに示された。(「反国家と自由の思想」大沢正道著、川島書店刊八百円)

潜在的基盤を運動として顕在化せよ

社会変革と自己変革の同時的遂行の必要性の認識、セクト的・政治主義運動への不信がすでにかなりの核がりをみせ、ぼくらの運動の潜在的基盤は十分すぎるほどある。向匙はそれを運動として顕在化していきなさい。それを運動として形成していくことこそ、ぼくらの課題なのである。

そのために今、ぼくらは何をなすべきなのか？

オニに、大衆運動の次元での、ぼくらの運動の結集軸の創出である。それは、せまい意味でぼくらのためのものであつてはならず、いわゆるノンセクトないし社会革命的志向をもった部分に開かれたものでなければならぬ。だが、もはや一般的にノンセクトの連合というだけでは十分であり、明確に自由連合派・社会革命派として登場する必要があるだろう。

オニに、ぼくらの運動を支える理論を形成することである。一次集団にしか通じないような情吐露はいり加減にやめにして、自分達同士の理論を構築することである。情念から発することはアナキズムのよきであり、政治的言語に対する反発ももつともだが、そこをこらさず一々集団をこえたぼくら同士の言葉によつて、理論を構築していかなければならぬ。△表社通信紙上でも大いにアナホルへあるいはアナアナ一論争をやらなくてはならぬ。

(表社通信)

転期を迎えた市民運動——渡辺／ニヒリズムとアナキズムの——秋山／その他「表社通信」東京都豊島区南池袋ノの15の21 田中ビル内 表社

反代々木系新左翼をこえて

昨秋の一連の闘いは、単純街頭主義の限界を決定的に暴露した。また、全共闘運動も有的深化を果さぬうちにセクト主義に収斂されてしまった。そうしたなかで、今、きわめて否定的な二つの流れが浮び上ろうとしている。一つは、赤軍派に代表される主体形成抜き、軍事技術主義であり、一つは幻の八大方針を造ろうとする前衛党主義である。

反スタを唱えながら、自らの存在様式としてはスターリニズムをこえられない現在の新左翼の限界性を突破しなければならぬ。革命のイナミズムと党派の狭い枠に封じこめてはならぬのだ。我々の革命は、前衛党がなかったから革命が起きなかった。今、全ての力を前衛党建設へ、など十年一日の如く繰り返す政治主義者とは無縁である。(「永久革命」号)

自由連合派の結集軸を形成せよ——70年代闘争の基底とは何か／砂川剛

争の新たな視界より 渡辺和人／コン・ベンテヤットの一句への私的感想 江口幹／反世界への飛翔(エ) 冬木薫／反逆者闘争の現段階(申し込めは、東京都豊島区南池袋ノの15の21、田中ビル表社内、社会主義評議会へ)

コミニケーション運動を

宇宙は、エネルギー物質と、情報でなり立っている。大きく云えば、宇宙はこの二つの研究領域にかかっている。

マルクスは、資本主義社会における生産の総過程を分析して「資本論」を書いたが、われわれに欠けているのは「コミュニケーション総過程の理論的分析」である。それは「管理科学」・「権威主義的体制に挑む科学」となろう。なせなり、それは、組織論を、あるいは人間の意識の問題を必然的に含み、社会という「エトワース」を明らかにし、社会にはあかなければならぬ。

それは「資本論」に代るものというより、それと相互に補完し合うものとなる。われわれは「コミュニケーション」の資本論や、資本の「コミュニケーション」論をもたねばならぬ。(「ステインフル通信」NO.1)

ステインフル 4号

対話をノ／幻滅のロシア革命(ク)ロポキンとの再会 エマ・ゴールドマン 石川司訳／自由閣覧室 ウィナーの「サイバネティクス」滝理

(申し込めは、大阪市東住吉区桑津町の90山口方 ステインフル同人まで 定価送料共一部百円)

アナキズムの世界

名古屋ナ研編集 活版印刷 29頁 一部150円 自連社まで

●アナキズムの原理と原則 大沢正道／はじめに・各人の各人による統治・永遠の矛盾・手段と目的の一致・永遠の破壊・叛逆と革命・唯一者——自我の棄脱・直接行動論・自由連合論・おわりに——全体革命に向けて

●アナキズムのABC Aベルクマン／はじめに・アナキズムは暴力か・観念が向匙だ





青年アナキストによる造反イン

ターは、実にアナキに行なわれ
た。無秩序ではなく、アナキスト
的秩序のもとに進められた。もう
一つの方のインターのようには、用
意された議長団も司会者も通訳も
いなかったが、ワイワイガヤガヤ
やっていたうちに自然と司会をす
るものや通訳をするものが出てき
た。時には、いくつものグループ
に分れてけんけんこうこうと議論
が南無されたかと思うと、全員が
一人の旗手に耳を傾けたりもした。
アナキスト・インターの方をど
うするかということから、フラン
ス5月革命は何を遺したか、3月
22日運動はどうして起ったかが、
コン・ペンディットら5月革命を
主体的に開いたもの達の口から直
接に迫力をもって語られた。五月
革命の内側の構図がありありと展
開されていくようであった。

この集会で感じた彼らの思想傾
向は次のようなものである。

① RNEF (フランス全学連) だとか大学自治会の官僚主義とそ
の限界に対する批判。自治会を自
派ののとり、全学連を打ち建て
ようとする日本の学生運動はター
ンと全く逆である。

② 日本ではいまだ反代々木系新左
翼にあたる部分、トロツキスト、
スパルタクスト、ヘーゲル、ルッ
ソアルギスト、モ沢東主義者に対
する徹底した理論攻撃とアナキ
スト連盟派の純正アナキズム批判。

③ 植民地の独立革命に對する関
心。アルジェリア戦争のフランス
ファノン、キューバ革命のゲバラ
あるいはボト、チ・ミンらに對す
る条件付評価がある。

④ ヒッピーやフロボー・ヘアムス
テルダムやストリホルムに居る
ヒッピー的な青年のグループで、
ブルジョア階級に對する「フロボ
カシオン」の挑発によってアル
ジョアの秩序や、ブルジョアの良
識を崩そうとしている。あるい

はシチュアショニストへ情況主義者
の文明批判の方法に影響がみられる。
それはキャンパ村での彼らの生活が
りを見てみると一目瞭然であった。

⑤ 政治革命ではなく社会革命、文
化革命、あるいは全体革命が必要で
あると考えている。恋を、愛を語
ることも革命であり、自分の日常性
を変えることがまず何よりも基本的
かつ必須革命でなければならぬと
考える。

フランス人は激しく大声で、イタ
リア人は少し大人っぽく、イギリス
人はキザっぽく、スイス人はインテ
リ賢く、それぞれがそれぞれの様で
話し合っていた。

始まってから4時間経っていたら
うか。「アン屋だ」という見張り
にたっていた女性の叫びで集会が自
然に流石のようになつてしまつた。
アン屋にとつてヨーロッパ中を騒が
している青年アナキストの連中が秘
密裏に集つて、何かを話し合ってい
るのだから、これはどの特ダネはな
いだろう。青年アナキストのアン屋
に對する態度は一種に輕蔑的であつ
た。コン・ペンディットは乱入した
カメラマンの前で、はいていた水泳
パンツを下にむろし、便所でしたか
むきねをしてみせることによつて侮
蔑をぶつけた。アン屋によつて五月
革命の英雄に祭りあげられたコン・
ペンディットの赤い髪と白い尻が変
に印象的な図であつた。

よくにとつてのアナキスト・イン
ターはそれっきりである。代表者カ
ートと破つてしまつたばかりに居る
ハミントンターはひかつた。それは果
国の地をばくばく自身を取りもど
すためにひこつた主体的行為だつ
たから悔はなかった。

ちやうどその頃、北部のベニスで
イタリヤ全学連の全国大会がはるか
れていたので、アナキスト・イン
ターに居る気の失くつた青年達の
間に、このコミュニストのお祭りを
ぶつ壊れに行こうという話が出た。
ほくも大会期間中に知り合ったボル
ド1からのスパイン・アナキストの
2世の男に自動車に座が一つ開いて
いるから一緒に行くかと誘われて、
ベニスに行く決心を固めていた。

その夜、インターに最後まで残る
という大派手道、徳三郎の二人に事
情を話し、再会を期してはくは翌朝
早くカニエル・コン・ペンディット
らとともにカウラを経た。秋と感

じさせるほどのすがすがしい朝だつ
た。その中を異様に長い車の列がア
ーサー警笛を鳴らしながらベニスへ
向つていた。



正直なところ、ほくがいなかっ
たらハ自連Vのつづきかかったらう
というハ自連Vがある。そのことは
また、ハ自連の私物化Vをほく自身
に許した。ハはく個人も、それが許
されていることを許していたVとい
う、にがい或る種のおもいと重なる。
ハはくも一手放そうとして手放せ
ない。この状況をぶちやぶるのは、
ハ自連の新しい編集メンバーが、ほ
くに對してきびしい造反を行うとき
だろう。それを形そろそろいようと思
いではくは待ちかまえている。かん
んには引きさかするつもりはないぞ
!と。

ハ自連Vはほくのつくったイメ
ージを脱出するために、編集メン
バーがハ自連編集に對しての新しい
運動Vをおこさねばならぬ。ほくの
今後のハ行動エリAVにオンアする
のでなく、ハ自連としての行動エリ
AVをつくり出さねばならぬ。その
うごきは最近ようやくうごきだして
きた、と思う。

ほくに對してハ自連Vとは、そ
の編集、印刷、発行のやり方と技術
において、その紙面の内と外と、そ
こにかかわる人間関係のすべてにお
いてハアナキズムと銘をうつことな
しに、ハこれがアナキズムだとい
うことをハ具現Vしようとするもので
あつた。

そのことがどのように示されたか、という
反省とともに、そのような示し方が、どのよう
にうけとられたか、問題がある。

「あれは、文化運動や」と批評した若き
革命的アナキストがいた。ほくはもうろん
ハ文化運動大いに結構Vとひらきながら、

ことは重要なものだ。ハ自連は文化革命
運動と銘をうけているVと云えば、その内容は別
として、きつとその存在理由をわめてくれる
だろう。しかしほくにはレツテルは重要で
ない。

6号にも書いたが、ほくに對して自連は
政治新聞である。政治的機關紙の概念に挑戦
する意味において、まわめて政治的V(向背考